

岡田特命担当大臣を表敬訪問 白井市産ナシを贈呈



(右から)松本尚衆議院議員、(なし坊を挟んで)岡田直樹・内閣府特命担当大臣、笠井喜久雄・白井市長、山下英之・白井市副市長(白井市提供)

白井市の笠井喜久雄市長は8月4日、内閣府を表敬訪問し、岡田直樹・内閣府特命担当大臣(地方創生)に白井市産ナシ「しろいの梨」(幸水10キログラム)を贈呈した。表敬訪問で笠井市長は「白井では100年以上ナシを栽培している歴史があります」と切り出し、千葉県がナシの栽培面積・出荷量が全国1位で、県内でも白井市が栽培面積でトップにあることを説明した。笠井市長が持参したナシ「幸水」を試食した岡田大臣は「暑い夏にぴったり、とてもおいしいです」と感想を述べつつ、ナシをおかわりしたという。

表敬訪問には松本尚衆議院議員も同席し、笠井市長と一緒にデジタル田園都市国家構想のロードマップを含めた農業振興について意見交換したという。

戦後78年目の平和祈念式典

印西平和の鐘高らかに

78回目の終戦記念日を迎えた8月15日、戦没者を追悼し平和を祈念する「印西市平和祈念式典」が、印西市大森の市文化ホールで開かれた。

式典では、正午の時報に合わせて市関係者が「印西平和の鐘」を突き、鐘の音が鳴り響く中で約160人の参加者らが黙とうを捧げ、78年前の大戦で亡くなった戦没者を追悼した。



一般市民も鐘突きに参加し、次々と鐘を鳴らした。孫を連れて参加した、市内在住の本田満さん(65)は「この鐘の音の余韻のすごさが素晴らしい」といい、孫たちが鐘を突く姿を見て「孫に鐘突きを体験させられて良かった」と話した。本田さんの孫で小学6年生の亀山凛桜さん(11)は、鐘を突いて「鐘の音が良かった」と笑顔で答えた。

一般市民と一緒に印西平和の鐘を鳴らした、中澤俊介市議は取材に対し「ロシアのウクライナ侵攻から1年半近く経ったが、多くの市民の皆さんにも『戦争と平和』について考える機会になったと思う」とコメントした。

式典では、特別講演「香取正彦はなぜ『平和の鐘』をつくったのか」も行われ、講師で元市職員の板倉三郎氏が、「印西平和の鐘」の作者の故・香取正彦氏について講演した。会場には香取氏の親族も出席し、壇上で平和の鐘を突いた。

印西市内の市立中学校9校の中学3年生を対象に募集した「平和への願いを込めた標語」には490点が寄せられ、市立印旛中学校3年の池田翔太さんの作品「未来へと 平和のバトン つないでく」が最優秀賞に選ばれた。

【平和の願いを込めた標語の受賞6作品と「印西平和の鐘」の特別講演の音声は、利根新報WEB版に掲載します】

神妙な面持ちで「印西平和の鐘」を突く中澤俊介市議

印西市消防団が6年ぶり出場

千葉県消防操法大会

消防団員の消防操法技術向上と地域防災体制強化を目指す、第59回千葉県消防操法大会が7月22日、市原市菊間の県消防学校で行われ、印西市消防団が6年ぶりに出場を果たした。

印西市消防団は、7月2日に四街道市で開かれた、第42回千葉県消防協会印旛支部消防操法大会の「小型ポンプの部」で準優勝、「ポンプ車の部」で3位入賞するなど好成績を収め、県大会出場機会を得た。

県大会では県内10地域から計23チームが出場。ポンプ車や小型ポンプを操作し、放水して火点(的)を倒すまでの時間と、正確な操作規律を競った。



小型ポンプの部で火点(的)に向けて放水する、印西市消防団の団員たち(印西市提供)

印西市消防団は、第12分団第2部の団員4人が小型ポンプの部で出場し善戦したが、惜しくも優勝には届かず努力賞となった。

印西市防災課によると、消防団員は定員772人中2023年4月1日現在で583人と定員割れが続いており、同課では消防団加入を呼びかけている。

データ入力 WEBデザイン マットクリーニング作業

相談・見学・体験 無料実施中!

今期 B型利用者 募集中!!

※対象者：18歳以上で障がいをお持ちの方

働きながらスキルを取得できる

就労移行支援 / 就労継続支援B型 みらいキャリアサポート印西牧の原

TEL.0476-33-7523

〒270-1335 千葉県印西市原 1-2 BIGHOP ガーデンモール印西

https://miraics.jp/